

大泉町発足55周年記念

# 大泉町 今昔写真集

Let's Look Back at the History of Our Town Oizumi,  
and Create a Bright Future for Our Children



大 泉 町



## ごあいさつ

大泉町長 齊藤 直身

本年は、大泉町が昭和 32 年 3 月 31 日に誕生し、55 周年を迎えます。

戦後、軍需都市から基地のまちへ、先人の英知と決断、今を生きる町民皆さんの<sup>たゆ</sup>弛まぬ努力により、都市基盤の整った北関東有数の工業都市へと発展してまいりました。

町勢発展の過程では、全国から新たに多くの皆さんが住民となり、就業や企業を興し、新たなふるさととして、地域社会の<sup>きずな</sup>絆を創設してまいりました。また、その時々<sup>た</sup>の困難にあつては力を合わせ、次代へ引き継ぐ大きな資産を築き、ゆとりとうるおいのある「まち」になっています。また、近年では、開かれた国際都市として、世界 50 か国から外国人住民が集い、「秩序ある多文化共生」に向けた歩みを進めています。

社会資本の整った「成熟したまち」となるなかで、現在、行財政を取りまく環境は、欧州の金融・財政不安による景気悪化、三位一体改革による国庫補助金の削減、分権社会への移行へと、厳しさを増しております。また、超高齢化・人口減少社会に入り、「物が中心の時代」から「心が中心の時代」へと転換し、新たなまちづくりのステージへと進んでおります。

これからのまちづくりは、町民皆さんが主役であるという原点に戻り、住民と行政の協働を柱として、誰もが住みなれた地域で、安心して暮らせるよう、“絆”を大切に、全ての町民が生き甲斐を感じ、やる気を発揮していただきながら、気品と風格のあるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

折しも、昨年、3 月 11 日には、東日本大震災が発生し、被災地では懸命に復興・生活再建に取り組んでおられます。未来を信じ、人と人との支え合い、分かち合いの心を大切に、戦後の復興・発展に取り組んだ先人に思いを馳せ、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

なお、「大泉町今昔写真集」は、町政 55 年の歩みを振り返り、まちづくりに参画された全ての皆さんへの感謝とまちづくりの道しるべとして作成したもので、広くご活用いただければ幸いです。

# ずっと



住みたい私のまち おおいずみ



## 目次

大泉町誕生から 55 年の歩み	4	西小泉駅より南側	15
写真位置図	6	庚申 <small>こうしん</small> の榎	15
大泉町役場	7	城之内公園	16
大泉町役場屋上より	7	養蚕農家家屋	16
大泉まつり	8	鹿島の松	17
社日まつり	8	大泉町と太田市の境界	17
町民体育祭	9	住吉・富士之越交差点	18
旧三洋電機(株)東側	9	南小学校東側の歩道橋	18
旧三洋電機(株)正門	10	北小学校	19
旧三洋電機(株)遠景	10	利根川河川敷	19
西小泉駅西側の国道 354 号	11	幻の鉄道	20
西小泉駅東側の国道 354 号	11	川砂採取現場	20
国道 354 号志部交差点	12	第一浄配水場	21
国道 354 号と北小歩道橋	12	第二浄配水場	21
旧中心街	13	大泉町公民館	22
西小泉駅前	13	清掃センター	22
西小泉駅通勤風景	14	大泉町 55 年のあゆみ (年表)	23
西小泉駅南側の国道 354 号	14		

1. 本書は、大泉町発足 55 周年を記念して、主に高度経済成長期を迎えた昭和時代における本町内に所在した建物や風景の移り変わりを中心に、現在と対比して掲載しています。
2. 本書に用いた写真については、平成 5 年、町発足 35 周年記念に製作・刊行された「レンズがみた大泉 70 年」編集時に、町内の方々や企業等から寄贈された写真やネガ、広報情報課・教育委員会で保管されていたものを編集して使用しています。
3. 時代考証については、わかるものはその年代を、また明確ではないものについては、時間的差異を考慮し記載しています。
4. 本書の執筆編集は、企画部企画課及び広報情報課を中心に、教育委員会等の協力を得て行いました。

大泉町発足55周年記念

# 大泉町 今昔写真集

Oizumi, Past and Present



# 大泉町 誕生から



自動車製造工場となった太田・大泉飛行場（昭和44年返還）

## 軍需都市から 基地のまちへ

大泉町の近代工業都市としての歩みは、中島飛行機(株)小泉製作所の開設から始まります。

中島飛行機(株)小泉製作所は、昭和15年太田製作所から分離し、終戦までの6年余の活動で、「銀河」「零戦」など1万522機の海軍機を生産しました。昭和20年には、国営第1軍需工場第2製造廠となり、ポツダム宣言の受諾を機に、8月26日をもって解散しました。9月には、米軍が進駐し、広大な跡地は、キャンプ・ドルウとして兵站物資集積の拠点基地となりました。

## 復興の歩みのなかで 大泉町誕生

昭和26年、サンフランシスコ講和条約の調印。GHQの主導により農地改革、財閥解体、労働組合結成の促進、教育基本法制定などの戦後改革が進みました。

大泉町（小泉町・大川村）では、農業組合の設立、太田高等学校定時制大川分校の開設、農地改革、土地改良事業が行われました。

昭和31年10月には、市町村建設促進法が施行となり、昭和32年3月31日、小泉町と大川村が合併し、大泉町が誕生しました。合併時は、地域産業も大きく衰退し、戦中数万人を数えた人口も1万9,000人余に減少しました。

## 高度成長を背景に 工業都市へ

合併後まもなく新町建設方針が策定され、衰退した産業復興、農業振興、教育振興がまちづくりの柱となりました。

産業復興は、キャンプ・ドルウの米軍撤退後に新たな企業を誘致し、産業の振興を図るというものです。合併後はじめての町議会で大泉町工場誘致対策委員会が設置され、企業誘致への本格的な取り組みが始まりました。合併時、キャンプ・ドルウの跡地は、防衛庁で駐留米軍撤退後に自衛隊施設に転用したいとの意向がありました。町では産業経済発展のために工場を誘致すべきであるという見解にたち、強力に反対運動を展開しました。また、国会・関係官庁への陳情や工場誘致対策委員会の強化が図られ、企業誘致活動が活発に展開されました。

昭和34年、キャンプ・ドルウが米軍から返還され、大手電機企業の進出が決まりました。昭和35年、首都圏市街地開発地区の指定を受け、初期の田園都市づくりから、首都圏の衛星工業都市づくりへと方向が大きく変わりました。

昭和30年代は、高度経済成長を支えに、企業の進出も相まって、町勢は順調な発展を遂げました。

## 県下第1位の町へ 大きく躍進

昭和40年代に入ると、急速な経済成長に合わせて、都市基盤の整備が喫緊の課題となりました。昭和41年、町営水道の給水開始。その後、大泉工業団地を中心に、新たに大利根、吉田、仙石金塚、坂田、寿崎の工業団地、五反田、寿崎住宅団地が造成されました。また、群馬県下市町村に先がけ用途地域が設定され、街路整備、区画整理、公園整備などが急テンポで進められました。昭和45年、大利根工業団地が完成すると、食品工場や印刷業など日本を代表する企業が進出しました。

昭和41年には、日本の総人口が1億人を超えました。大泉町の人口は、昭和40年2万1,262人（世帯4,737）、昭和45年2万5,149人（世帯5,908）となり、

# 55年の歩み

人口伸び率は18パーセントで、県下第1位となっています。

また、町民分配所得も大きく伸び、昭和43年の町民分配所得の総額は121億8,000万円に達し、昭和40年の56億円に比べ2.17倍となりました。ちなみに昭和43年の個人所得をみると、町民1人当たり35万420円となり、同年の群馬県民1人当たりの30万9,000円と比べ、113.4パーセントとそれを大きく上回り、県下第1位へ躍進しました。

工業製造品出荷額は、合併以後、昭和32年推定約2億5,000万円、昭和55年2,711億円（県下市町村中5位）、平成9年の9,100億円（県下市町村中2位）をピークに減少傾向にあります。

## 豊かな財政力を背景に 都市基盤を整備

昭和44年、太田・大泉飛行場の日本への返還。昭和48年、第一次オイルショック。昭和54年、第二次オイルショックにより、日本経済は高度経済成長から安定成長へと大きく変わりました。

大泉町ではオイルショックによる経済変動を乗り越え、昭和57年、自動車製造工場の一部が太田・大泉工業団地で稼働し、北関東有数の工業都市へと発展していくことになります。

昭和60年代は、豊かな財政力を背景に、斎場式場棟、保健センター、町立西中学校、文化むら大ホール棟・展示ホール棟、図書館、福祉作業所、東児童館、新清掃センター、町民野球場など町民生活にかかわる基盤整備や施設づくりが進められました。

また、工業製造品出荷額も飛躍的に増加し、中小企業は慢性的な労働不足になりました。人手不足により倒産する企業も出現するなかで、それを必死に防ごうとアジア系の不法就労者を雇用する中小企業も多くなりました。平成2年にはその転機となる外国人在留に関する法改正が行われ、外国人就労者が急増しました。外国登録者数は、平成元年623人（外国人人口の割合1.6パーセント）、ピーク時の平成20年には7,082人（外国人人口の割合16.7パーセント）になりました。

外国人住民の増加にともない定住者としての多くの課題が生じました。大泉町では「秩序ある多文化共生」

を基本とし、教育・保健・環境など多くの分野で取り組みを進めました。また、国に対しては「外国人集住都市会議」のメンバーとして多くの提言を行いました。長年の懸案事項であった外国人定住者の居所確認については、外国人登録制度の見直しが図られ、改正住民基本台帳法に基づく新たな制度が平成24年7月から実施されることとなりました。

多文化共生社会の構築が進み、東日本大震災では、日本人住民と外国人住民が力を合わせて被災者・被災地支援にあたりました。

## 気品と風格のあるまちへ 新たな歩み

平成10年代は、バブル経済の崩壊など激しく変動する社会経済情勢にありました。

混迷する厳しい経済情勢のなかで、行政情報番組「みよりOIZUMI」のFM放送の開始、広域公共バスの運行、いずみの杜、高齢者ふれあいセンター吉田・寄木戸・北小泉のオープンなど、少子高齢化、情報化、国際化社会に対する対策が進められました。

平成20年代に入ると、サブプライムローン問題から端を発した、いわゆる「リーマンショック」が大きな引き金となり、景気は過去に例のない急速な悪化に転じました。また、平成23年3月11日には、東日本大震災が発生し、大泉町でも1,000件を超える屋根瓦や多くの公共施設が被災を受けました。町内施設の早期復旧にあたるとともに被災者・被災地支援にあたりました。

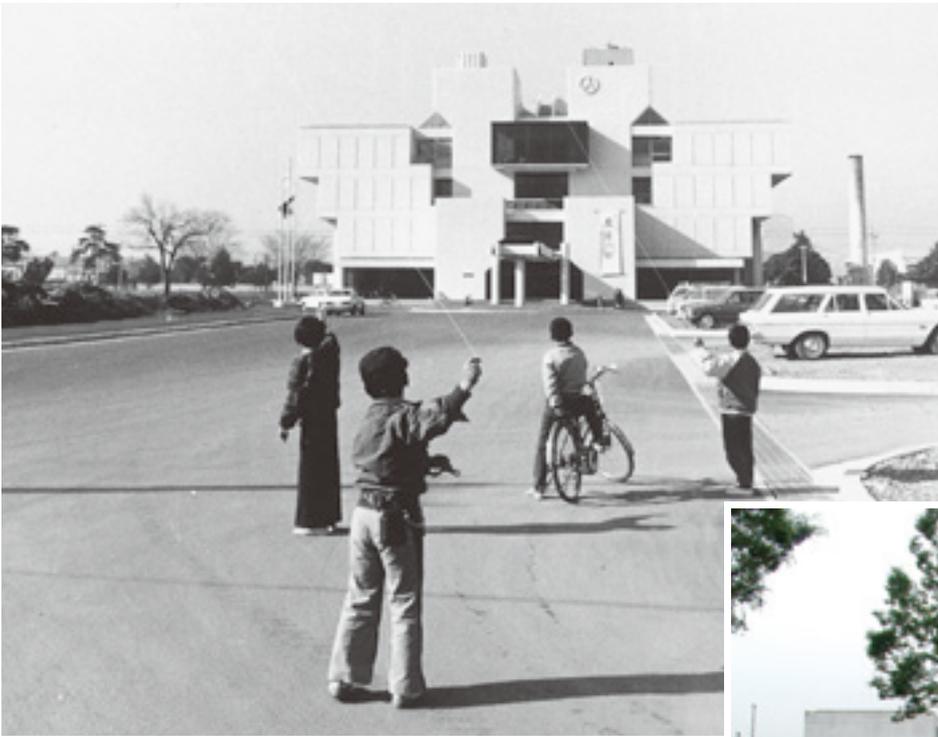
行政施策では、協働のまちづくり推進指針の策定、南中学校の改築工事、環境フェアの開催、子宮頸がんなどの予防接種の助成制度の導入、ファミリー・サポート・センターの開設など、誰もが安心して暮らせるよう対策が強化されました。

大泉町は55年の歩みのなかで、多くの社会資本の整備が進み、次代へ引き継ぐ大きな資産を築きあげ、ゆとりとうるおいのある「成熟したまち」となり、住民と行政の協働が本格的にスタートしました。

混迷する厳しい経済情勢が続くなかで、人と人との<sup>きずな</sup>絆を深め、社会的弱者に優しく、気品と風格のあるまちづくりが進められています。

# 写真位置図





役場庁舎は、小泉町・大川村の合併時に「新庁舎は概ね中央に造る」という合意があり、拓殖大学跡地を譲り受け、昭和49年に完成しました。白亜の殿堂、はばたく外観は若さあふれる大泉町のシンボルとして設計されました。写真は庁舎の前でたこ揚げを楽しんでいる子どもたちの様子で、役場前は格好の遊び場だったようです。

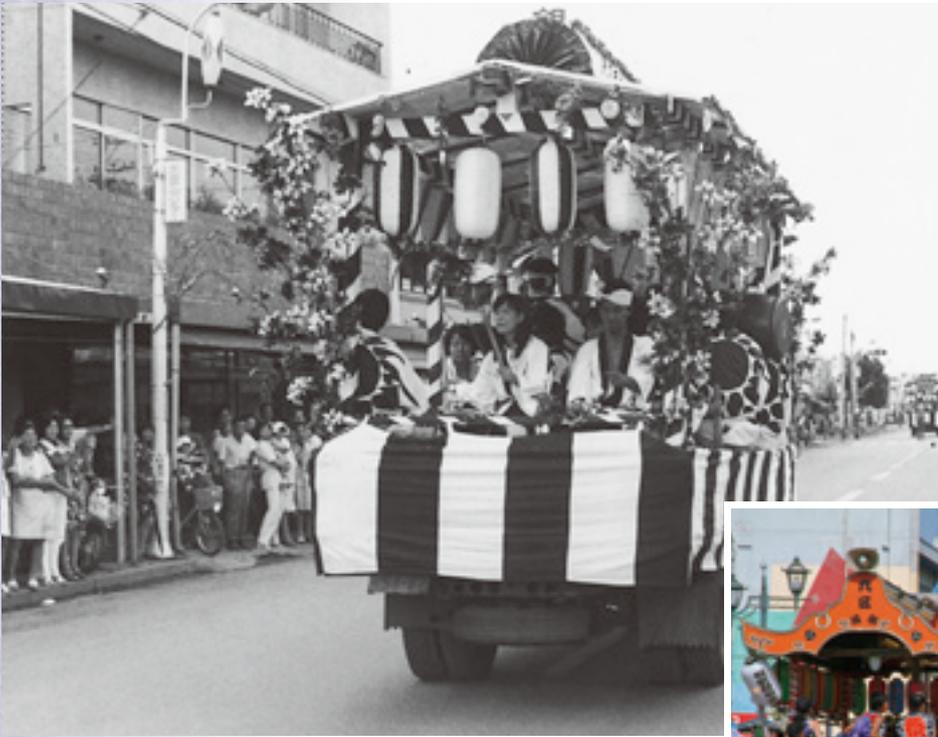
## 1 大泉町役場



「けやき」は、昭和57年3月に町のシンボル木として指定されました。写真は昭和50年代に役場の屋上から、一般駐車場周辺の「けやき」を撮影したものです。庁舎前の「けやき」は新築記念樹として移植され、30年以上にわたり町の発展を見守り続けています。美しく樹姿を整えた「けやき」も、樹齢90年を超え、大きく成長しました。

## 2 大泉町役場屋上より





町の発展と都市化にともない中止されていた「祇園祭」は、昭和46年に商工会青年部により復活され、写真は当時の山車の巡回を撮影したものです。昭和48年7月には、名称を「第1回大泉まつり」と改め、町民総参加の一大イベントとして、山車の巡回や街頭パレード、みこしの渡御など多くの行事が終日続き、昔も今も多くの人でにぎわっています。



### 3 大泉まつり



昭和41年4月春の社日まつりを撮影したものです。小泉神社東側の道路（通称社日通り）には、生活雑貨や植木、農機具などを商う多くの露店が建ち並び、近隣近県から多くの参拝者が訪れました。伝統を伝える祭りとして、里神楽や盟神探湯（くかたち）神事などが、毎年春と秋、彼岸の中日に近い日曜日に行われています。



### 4 社日まつり



平成 23 年 10 月で第 55 回を迎えた町民体育祭。写真は昭和 44 年に北小学校で行われた第 13 回町民体育祭を撮影したもので、10 分団による対抗戦形式で行われていました。今の 22 地域公民館対抗形式になったのは、昭和 57 年からです。今では、南中学校が会場となっていますが、当時は、会場に南中のほか、北中、北小なども使用されていました。



## 5 町民体育祭



昭和 40 年代の旧東京三洋電機株(現パナソニック株)の東側の道路を撮影したものです。昔から、道路は広く歩道も整備されていることが分かります。写真左側の歩道と線路跡(写真に線路は見えていませんが)は、町を南北に縦断する総延長約 2.8 キロメートルの緑豊かな「いずみ緑道」として整備されています。



## 6 旧三洋電機株東側



昭和 50 年代の旧東京三洋電機(株) 本社の社屋を撮影したものです。旧東京三洋電機(株)は、昭和 34 年に大泉町に進出し、現在のパナソニック(株)の子会社となるまで町の発展に大きく寄与してきました。今では、近代的な社屋(テクノゲート)に建て替わり、社屋に掲げられているロゴも、「SANYO」から「Panasonic」にかわりました。



## 7 旧三洋電機(株)正門



昭和 40 年代後半に坂田歩道橋北側から旧東京三洋電機(株)方向を撮影したものです。煙突とのかぎり屋根の工場が写っています。遠くに写っている大きな建物は、大和根工業団地の工場であると思われます。大和根工業団地は、県下第 3 位の規模を誇る工業団地として昭和 45 年に完成し、印刷や食品など、多くの企業が進出しています。



## 8 旧三洋電機(株)遠景



昭和40年代中頃の西小泉駅南側の国道354号に架かる歩道橋の上から西側を撮影したものです。今では、街路樹が植栽され整然とした現代的な国道となっています。同時期の国勢調査（昭和45年実施）では、本町の人口伸び率が、前回調査との比較で、18.3%増え、県下第1位となっています。



## 9 西小泉駅西側の国道354号



昭和50年代の西小泉駅南側の国道354号に架かる歩道橋の上から東側を撮影したものです。自動車の往来は昔も今も、大変多いことが分かります。商店街は、街路灯を利用し、花飾りやイルミネーションで、にぎわいを演出しています。平成9年から平成13年にかけて電線類も地中化され、都会的な国道となりました。



## 10 西小泉駅東側の国道354号



昭和40年代の国道354号を志部交差点から西側に向かって撮影したものです。西側から見た町並みは、銀行の看板や走っている自動車の型式などが変わっていますが、走る自動車の多さや建物の様子は当時のままで、電線類の地中化により、すっきりとした風景になっています。数少ない、昔と変わらない景観が見られる場所となっています。

## 11 国道 354 号志部交差点



昭和40年代の国道354号と休泊川が交差する場所を撮影したものです。歩道橋奥に写っている建物は、消防署で、昭和48年の消防庁舎の新築により、今は公園となっています。現在、休泊川の防災対策事業として、老朽化した橋の架替工事を進めており、歩道橋も撤去され、大きく景観が変わっています。

## 12 国道 354 号と北小歩道橋





昭和40年代に旧大泉町役場（現図書館）前で撮影された、大泉町一周駅伝のものです。旧役場前は町の中心部であり、駅伝大会や消防の検閲式など、様々な行事が行われにぎわっていました。また写真の右に見える洋風の丸い屋根の建物は、今もほとんど変わらない姿で残っています。



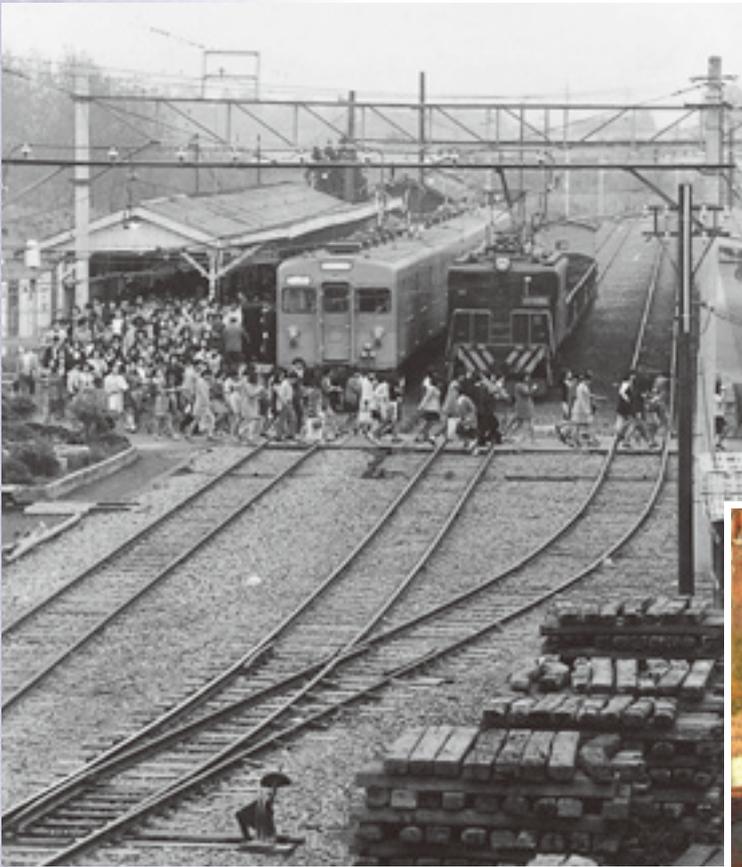
### 13 旧中心街



昭和40年代後半の西小泉駅の朝の通勤風景を撮影したものです。駅前には会社などに向かう多くの人が見え、バスも次から次へと駅前のロータリーに入ってきており、マイカーではなく公共交通機関を利用して通勤などを行っている人が多かったようです。人の数やバスを除けば、駅前の風景は今も変わりません。



### 14 西小泉駅前



昭和 40 年代後半の西小泉駅の朝の通勤風景を撮影したものです。電車から多くの人々が降りてきていることから、電車で大泉町に通勤などをしてきた人がおおぜいいたようで、工業都市として発展する大泉町を象徴するような写真です。今では、マイカーで通勤する人が多く、朝夕は、町内の道路が渋滞しています。



## 15 西小泉駅通勤風景



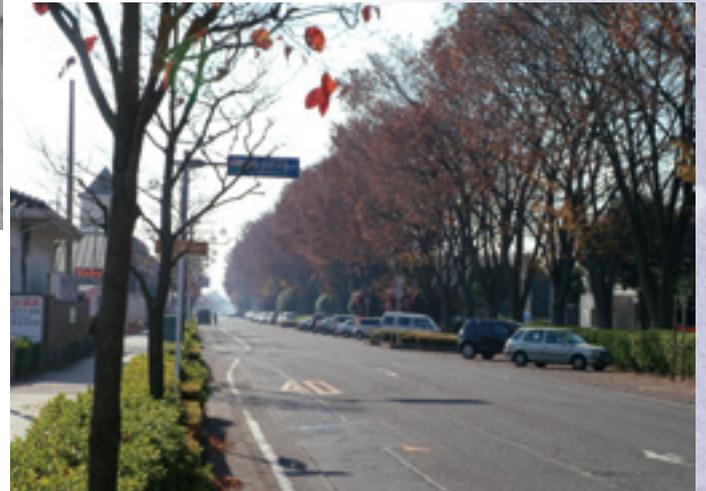
昭和 32 年頃の西小泉駅南側の国道 354 号にある踏切を西側から撮影した写真です。道路は未舗装で、自動車もほとんど走っておらず、のどかな風景です。現在では、仙石まで続いていた線路が撤去され、写真の踏切もなくなっています。交通量も大幅に増え、歩道橋も整備され、多くの自動車が行き交う道路となっています。



## 16 西小泉駅南側の国道 354 号



昭和40年代の西小泉駅南側の国道354号に架かる歩道橋の上から南側を撮影したものです。多くの方が歩道を歩いている姿が見られますので、これも朝の通勤風景を撮影したものと思われます。写真には、線路が写っていますが、現在、この線路跡は、日本街路樹100景にも選ばれた「いずみ緑道」として町民憩いの場所となっています。



## 17 西小泉駅より南側



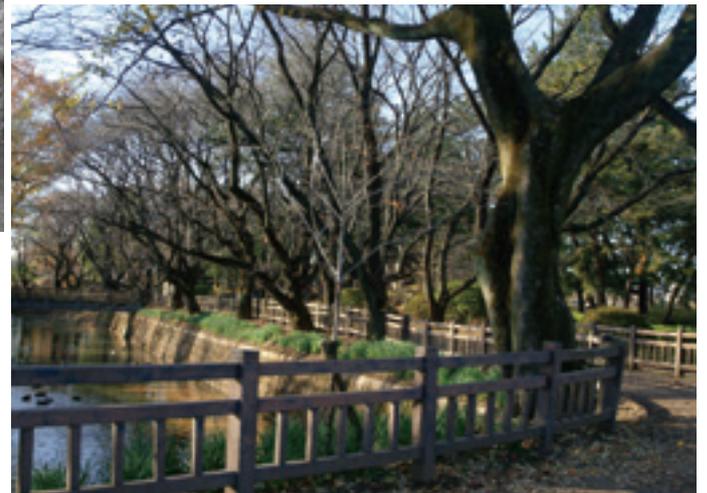
昭和35年頃の北小泉（旧榎町）の庚申の榎を撮影したものです。その由来は、小泉城主富岡直光の庭園にあった木々が、新田開発のため、徳川綱吉の命により伐採され、数本残ったもののうちの1本と伝えられています。風雪に耐え、幹から根本まで空洞となり、倒木の心配もありましたが、枝のせん定などの処置により、樹勢を回復しました。



## 18 庚申の榎



昭和30年代前半、城之内公園を本丸東北側から撮影したものです。城之内公園は、1489年に築城された「小泉城」を、昭和47年から3か年かけ、現在の形に整備したものです。園内には、約300本の桜の木が植えられ、桜の名所として、花見の時期には町内外から多くの花見客が訪れにぎわいます。



## 19 城之内公園



昭和63年、現在の文化むらに移築される前の代表的養蚕農家の家屋を撮影したものです。この建物は、広い2階広間、復元された土間の炊事場、けやきの大黒柱など、大泉町の明治時代の生活様式を伝えています。養蚕農家では、蚕を「おこさま」といい、繭玉は農家にとり、貴重な現金収入でした。



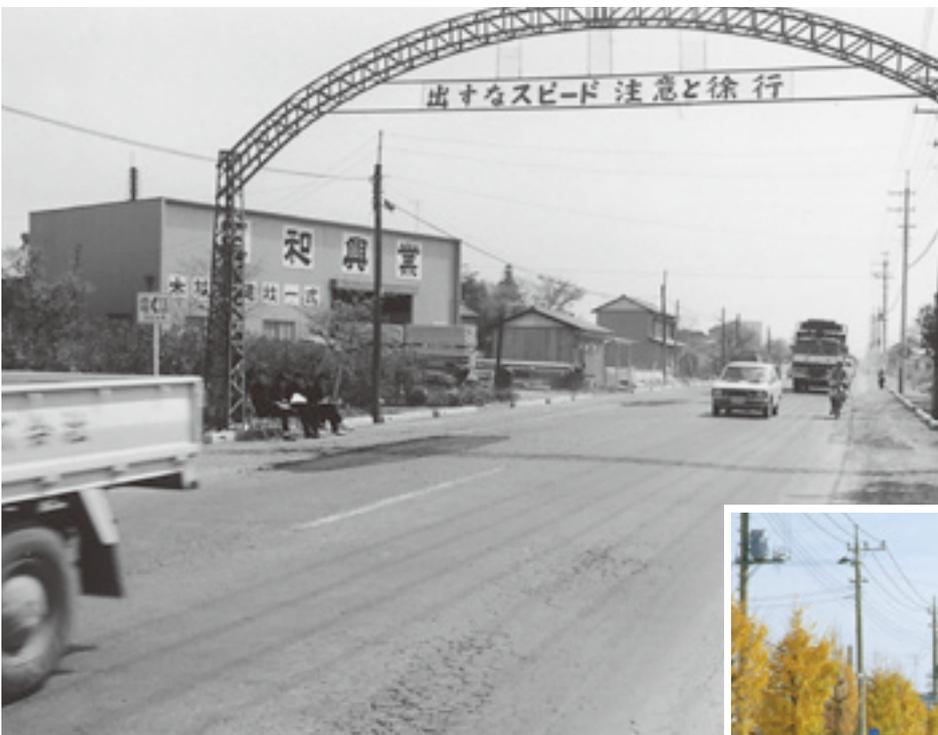
## 20 養蚕農家家屋



昭和54年8月に暴風で倒れた鹿島の松を撮影したものです。鹿島橋のほりにあったので「鹿島の松」と呼ばれていました。また、明治の水害の際には堤防を守ったことから「お助け松」とも呼ばれていたようです。現在、「鹿島の松」は残っていませんが、その跡には石碑が建てられています。(27区史跡保存会 橋連松の由来より)



## 21 鹿島の松



昭和47年頃の国道354号の太田市と大泉町の境界で撮影されたものです。大きなアーチが境界とされます。そのアーチには、交通安全の標語が掲げられています。今では、このアーチも撤去され、きれいな舗装と銀杏並木の整備された道路となっています。



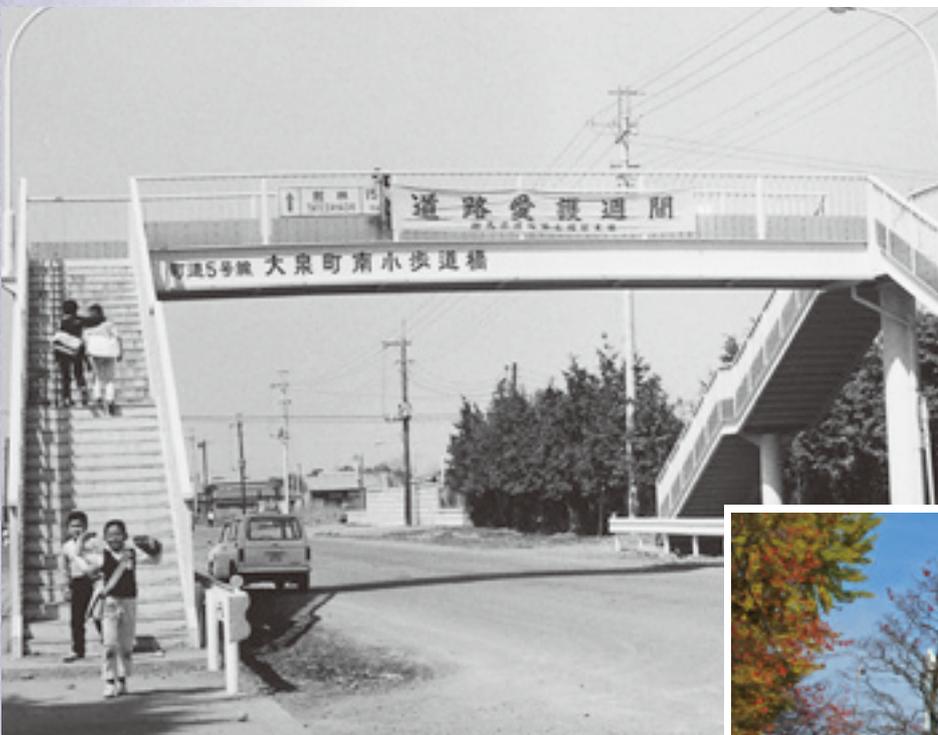
## 22 大泉町と太田市の境界



昭和40年代から50年代に住吉と富士之越との境にある交差点での通学風景を撮影したものです。交通指導員さんが子どもたちの安全を見守ってくれています。大泉町では交通指導員制度が昭和44年4月に発足し、現在でも24名の交通指導員の方々が町民の皆さん、そして子どもたちの安全のために日々活躍しています。



## 23 住吉・富士之越交差点



昭和50年代、南小学校の東側道路に設置されている歩道橋を撮影したものです。南小学校の入口が南側のみであったため、歩道橋の階段が南側に設置されていました。その後、小学校の建て替えにともない北側にも入口ができたので、現在では、階段部分が昔とは逆に北側に設置され、子どもたちの安全を確保しています。



## 24 南小学校東側の歩道橋



昭和40年代の北小学校を撮影したものです。旧校舎は、昭和6年に建てられ、昭和54年に現在の校舎に建て替えられるまで使用されました。木造校舎には、「いつでもみている時計塔」と校歌にも歌われている、三角屋根の「時計塔」が子どもたちを見守っています。今では、近代的な校舎で、子どもたちは元気に学校生活を送っています。



## 25 北小学校



昭和30年代後半に熊谷市（旧妻沼町）側の利根川河川敷で水遊びを楽しんでいる人たちを撮影したものです。昔は、水遊びができるくらいに利根川の水もきれいで、河川敷も広がったようです。今でも、利根川は鮭が多く遡上しますので、水はきれいですが、プールも整備され、昔のように川遊びをする姿は見られなくなりました。



## 26 利根川河川敷



昭和 47 年頃、大泉町と熊谷市を結ぶ鉄道を敷くために建築された橋脚部分を熊谷市（旧妻沼町）側から撮影したものです。鉄道は、橋を架けるのみとなっていました。終戦により工事が中止され、橋脚部分だけを残しつつながることはありませんでした。その橋脚は、町民野球場の近くに 1 基だけが残るのみとなっています。



## 27 幻の鉄道



昭和 40 年代に仙石前の利根川で川砂利などを採取する現場を撮影したものです。沖で採取した砂などを船で運び、さらに川岸まで来ていた鉄道（仙石河岸線：昭和 51 年廃線）で運んでいたようです。現在では、川砂利などは、古海前の利根川で採取されていますが、船から直接パイプで陸地へ上げ、トラックなどで運搬しています。



## 28 川砂採取現場



昭和41年10月に行われた上水道通水式の記念式典を撮影したものです。大泉町の水道は昭和40年7月に全町を給水対象とする水道申し込みの呼びかけが行われ、その年度末には給水人口12,640人、2,746戸に達しました。その後、工場の進出や人口増加により給水人口も大きく増加しましたが、外観は今も変わっていません。



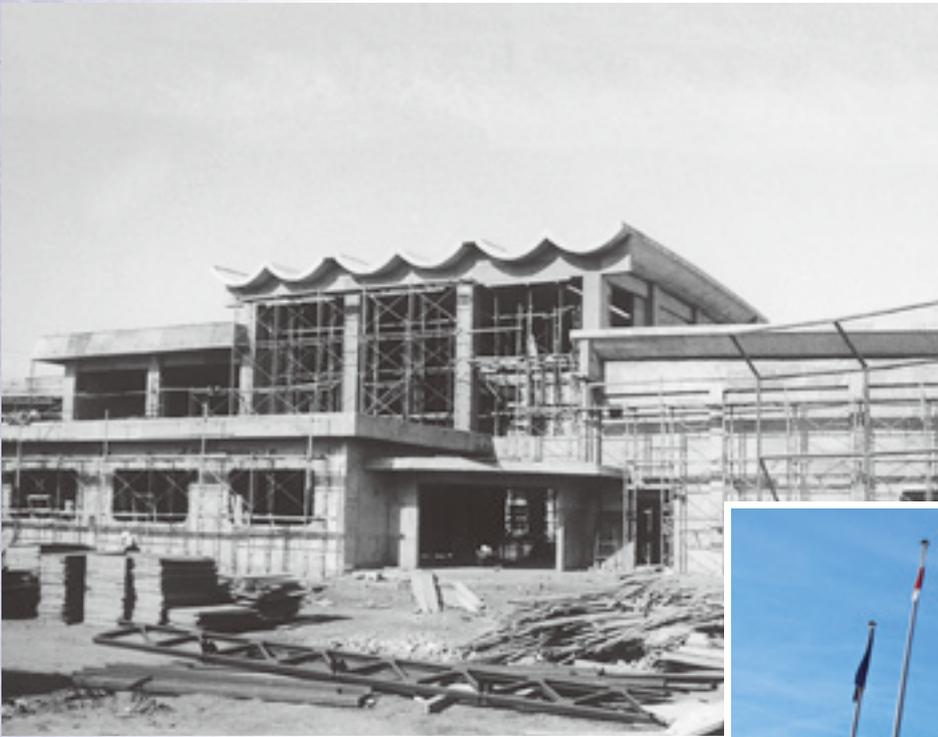
## 29 第一浄配水場



昭和45年頃より始まった、第二浄配水場の建設現場を撮影したものです。第二浄配水場は、昭和45年7月に大泉町が当時の自治省より東毛広域市町村圏として指定を受け、人口が増加することを想定し建設が始まったものです。第二浄配水場の近くには住宅が建ち並び人口が増えていることがわかります。



## 30 第二浄配水場



昭和 47 年頃の町公民館の建設工事の様子を撮影したものです。公民館は、地域の文化センターとして、豊かな町づくり、仲間づくりの場、町民皆さんが、気軽に活用できる施設として建設されました。公民館は、現在も、町民皆さんの心豊かな生活を築くための場として、多くの皆さんに活用されています。



## 31 大泉町公民館



年々増加する人口と生活の向上でごみの排出量が増加したため、昭和 43 年に清掃センターが改築され、搬出路から出てくる、ごみ収集車の列を撮影したものです。

現在の清掃センターの芝生部分は、昭和 51 年、大泉町、千代田町、邑楽町の 3 町一部事務組合が建設した清掃センターの搬入路の跡です。



## 32 清掃センター

# 大泉町 55 年のあゆみ

(年表)

## 32

昭和32年(1957) .....

- 3月 大川村、小泉町が合併して「大泉町」誕生、人口 19,105 人、3,898 世帯
- 5月 町初の町長及び議会議員選挙が行われる
- 7月 新町初年度の当初予算 6,183 万9千円となる
- 9月 米軍キャンプ東のプラタナスに、アメリカシロヒトリが初めて発生する

## 33

昭和33年(1958) .....

- 1月 役場大川支所を廃止  
広報「大泉町だより」第1号を発行
- 4月 行政区 29 区制スタート（従来は 38 区）  
学校名を変更、大川を南校に、小泉を北校に
- 5月 新町建設 10 か年計画を策定

## 34

昭和34年(1959) .....

- 2月 南中学校改築校舎が完成
- 3月 初の町営住宅が富士之越・寿崎に 20 戸完成
- 4月 国民健康保険事業が開始、運営協議会も発足  
町議会、三洋電機株誘致を全員一致で可決
- 6月 大泉キャンプB地区 12.9ha 返還される
- 10月 大泉キャンプA・C地区 88.1ha 返還される

## 35

昭和35年(1960) .....

- 4月 首都圏市街地開発区域の指定を受ける
- 10月 町になって初めての国勢調査が行われる  
人口 19,128 人、4,021 世帯

## 36

昭和36年(1961) .....

- 1月 町の紋章が決まる。1月1日制定
- 8月 北中学校に隣接し、町営プールが完成
- 10月 東京三洋電機株の開所式が盛大に行われる

## 37

昭和37年(1962) .....

- 1月 交通安全都市を宣言、県下4番目
- 4月 町発足5周年記念式典を北小学校校庭で挙行  
町の歌として「大泉小唄」「帰ろよ町へ」ができる
- 7月 電報電話局完成により町の電話が自動ダイヤルとなる

## 38

昭和38年(1963) .....

- 2月 ごみ収集車を初めて購入
- 4月 南小学校体育館が完成
- 7月 給食センターが完成
- 8月 ヘリコプターによる初の農薬空中散布実施  
北海道三井美唄炭鉱の離職者第1陣 11 世帯 43 人が、町内企業へ就職決まる

## 39

昭和39年(1964) .....

- 1月 町上水道建設工事始まる  
吉田西地区に町初の婦人消防隊が結成される
- 4月 町立南保育園開園、定員 90 人
- 5月 東志部交差点に町初めての交通信号機が設置される

## 40

昭和40年(1965) .....

- 1月 消防団と警察署の初の合同出初式が行われる
- 10月 町上水道給水開始  
国勢調査が行われ、県下町村中第1位の増加率 (11.1%) となる。人口 21,262 人、4,737 世帯

## 41

昭和41年(1966) .....

- 4月 小学校全学年に教科書を無償給付  
町都市計画条例を制定
- 8月 NHK「のど自慢」が南小学校体育館で行われる

# 42

## 昭和42年(1967) .....

- 4月 公民館分館組織を地域公民館組織に改める
- 8月 南中学校にプールが完成
- 9月 県道足利・赤岩線の舗装工事が始まる
- 11月 町発足 10 周年記念式典を南小学校体育館で挙

# 43

## 昭和43年(1968) .....

- 1月 救急業務開始、救急自動車購入
- 3月 町第一浄配水場が完成
- 4月 町立北保育園開園、定員 150 人  
休泊堀が1級河川に昇格して休泊川となる
- 12月 北中学校体育館が完成

# 44

## 昭和44年(1969) .....

- 3月 旧南中学校校庭が青少年広場として完成
- 4月 町交通指導員制度が発足
- 8月 24 年ぶりに太田大泉飛行場が返還される
- 12月 南中学校体育館が完成

# 45

## 昭和45年(1970) .....

- 10月 国勢調査が行われ、人口伸び率(18.3%)が県下第1位となる。人口 25,149 人、5,908 世帯
- 12月 大利根工業団地が完成

# 46

## 昭和46年(1971) .....

- 1月 交通の大動脈、刀水橋が完成
- 3月 町総合計画(昭和 46 年度~ 55 年度)を策定
- 4月 常備消防部が消防署としてスタート  
町立西保育園開園、定員 90 人
- 12月 都市計画法に基づく線引き決定

# 47

## 昭和47年(1972) .....

- 1月 児童手当制度がスタート
- 3月 拓殖大学跡を町役場庁舎敷地として取得
- 4月 西小学校が開校  
広域消防がスタート、町の消防署は太田地区消防組合  
東部消防署となる
- 8月 役場新庁舎建設基本構想決まる(地下1階、地上4階)
- 11月 町発足 15 周年記念式典を北中学校体育館で挙
- 12月 町の昼間人口3万人を突破

# 48

## 昭和48年(1973) .....

- 3月 町公民館が完成
- 5月 北中学校西隣りに東部消防署が完成
- 7月 第1回大泉まつりとして、夏まつりよみがえる
- 8月 西小、北小学校にプールが完成
- 11月 町の人口 27,871 人で県下町村中第1位となる

# 49

## 昭和49年(1974) .....

- 3月 西小学校体育館が完成、校歌もできる  
町第二浄配水場が完成
- 4月 西邑楽土地開発公社を設立
- 6月 坂田土地区画整理事業が完成
- 7月 役場新庁舎が完成し、29 日から業務開始、大泉まつりの時期にあわせ一般公開

# 50

## 昭和50年(1975) .....

- 3月 上水道水源確保(第3次拡張事業)
- 4月 県道高崎・館林線が国道 354 号に昇格
- 5月 町老人福祉センターが完成
- 7月 南小学校にプールが完成
- 10月 国勢調査が行われ、人口 28,377 人、  
7,365 世帯

# 51

## 昭和51年(1976) .....

- 4月 県立西邑楽高等学校が開校  
大泉町外二箇町村環境衛生施設組合が設立
- 7月 旧役場庁舎を改築して、図書館が開館  
清掃センターが完成し、60 t 炉が始動、一部事務組合が管理運営
- 12月 町社会福祉協議会が社会福祉法人としてスタート

# 52

## 昭和52年(1977) .....

- 3月 北小学校体育館が完成  
町発足 20 周年にあたり町民憲章を制定  
一般会計当初予算 30 億円の大台を超える
- 4月 東小泉駅が再開される  
町発足 20 周年記念式典を北小学校体育館で挙行

# 53

## 昭和53年(1978) .....

- 5月 町商工会館が完成  
清掃センターに粗大ごみ処理施設(処理能力 40 t / 5h) が完成  
福田総理大臣が来町

# 54

## 昭和54年(1979) .....

- 2月 町健康づくり推進協議会がスタート
- 4月 下たんぼに大泉警察署が完成  
中央公園(20,000㎡)、志部公園(10,000㎡)、浜野公園(2,600㎡)、の3公園がオープン
- 7月 地域社会のスポーツ振興にと大泉町スポーツ振興会が発足
- 11月 小泉城跡など5点を町の文化財に指定

# 55

## 昭和55年(1980) .....

- 3月 町新総合計画(昭和 55 年度～平成 2 年度)を策定  
湿式酸化処理方式による町衛生センター(処理能力 80kL / 日) が完成
- 7月 斎場が完成  
下たんぼに古墳時代の生活跡「御正作遺跡」が発見される
- 8月 吉田東土地区画整理事業が完成
- 10月 国勢調査が行われ、人口 31,282 人、10,097 世帯
- 12月 スポーツの殿堂「いずみ総合公園町民体育館」が完成  
町民体育館の完成を機にスポーツ都市を宣言

# 56

## 昭和56年(1981) .....

- 3月 北中学校に柔剣道場が完成
- 4月 ちびっ子たちの福祉と文化の拠点として大泉警察署跡地に中央児童館がオープン
- 8月 全国高校総体女子バレーボール競技が行われ、地元出場を果たした県立西邑楽高等学校がベスト 16 に

# 57

## 昭和57年(1982) .....

- 1月 町発足 25 周年を記念してNHK「のど自慢」が町民体育館で行われる
- 2月 飛行場跡地有効利用の第一歩として、富士重工業(株)大泉工場が一部稼働
- 3月 町の木・町の花が決まる。シンボル木「けやき」、緑化推奨木「さざんか」「つつじ類(さつきも含む)」町の花「チューリップ」「サルビア」
- 4月 町発足 25 周年記念式典を町民体育館で挙行  
水と緑のプロムナード「いずみ緑道」が全区間開通
- 10月 町民体育祭が今回から 22 の公民館対抗となる

# 58

## 昭和58年(1983) .....

- 3月 太田高等学校大泉分校が閉校となる  
東小学校が完成
- 4月 創る文化財第 1 号「若い女の像」の除幕式
- 10月 あかぎ国体(少年女子バレーボール競技)が開催され、真心の歓迎にふれあいの輪が広がる(16 日～ 19 日)

# 59

## 昭和59年(1984) .....

- 4月 西児童館がオープン  
中央児童館・西児童館で学童保育スタート
- 7月 部制を導入した機構改革を実施
- 9月 町社会福祉会館が完成

# 60

## 昭和60年(1985) .....

- 1月 古海原前1号古墳から銅鏡、直刀等発掘
- 3月 上水道第4次拡張事業が完了  
斎場式場棟が完成
- 5月 飛行場跡地利用について5者が協定書に調印
- 7月 町保健センターが完成
- 11月 東部土地区画整理事業が完成  
第1次町行政改革大綱(昭和60年度～62年度)を策定

# 61

## 昭和61年(1986) .....

- 3月 西中学校が完成
- 4月 南児童館がオープン
- 8月 窓口オンラインシステムが稼働
- 12月 東京三洋電機(株)が三洋電機(株)と合併

# 62

## 昭和62年(1987) .....

- 4月 町発足30周年記念式典を町民体育館で挙行
- 5月 町の歌を制定
- 6月 非核平和の町宣言
- 7月 文化都市宣言
- 9月 ハナミズキ通りが日本の道100選に入選

# 63

## 昭和63年(1988) .....

- 8月 古海原前1号古墳が県の指定史跡に決定
- 12月 第1次住居表示(住吉、日の出、三洋区の一部)スタート

# 1

## 昭和64年/平成元年(1989) .....

- 5月 文化むら・大ホール棟オープン
- 6月 南米日系外国人労働者が増加し、外国人登録者371人となる
- 7月 新図書館オープン

# 2

## 平成2年(1990) .....

- 3月 第3次町総合計画(平成2年度～12年度)を策定
- 4月 福祉作業所が開所
- 9月 ゆとり宣言
- 10月 外国籍児童(南米日系人)の増加に伴い日本語学級を西・南・北小学校に設置
- 12月 公共下水道事業に着手

# 3

## 平成3年(1991) .....

- 4月 東児童館オープン
- 6月 町の人口が4万人突破、外国人登録者1,864人となる
- 10月 文化むら・展示ホール棟が完成し、全施設がオープン

# 4

## 平成4年(1992) .....

- 1月 新清掃センターが完成
- 4月 町発足35周年式典を文化むらで挙行
- 7月 いずみ総合公園町民野球場が完成
- 9月 環境宣言
- 10月 ブラジル・サンパウロ州グアラチンゲター市と姉妹都市提携

# 5

## 平成5年(1993) .....

- 11月 工業製造品出荷額(平成4年)が7,277億円で県内市町村中第3位となる

# 6

## 平成6年(1994) .....

- 4月 人権尊重と福祉の町宣言
- 12月 いずみ緑道が新・日本街路樹 100 景に選ばれる

# 7

## 平成7年(1995) .....

- 6月 大泉国際交流協会を設立
- 7月 古海土地区画整理事業が完成
- 11月 町生きがいふれあい人材センターを設立
- 12月 第2次町行政改革大綱(平成8年度～12年度)を策定

# 8

## 平成8年(1996) .....

- 6月 仙石土地区画整理事業が完成
- 7月 町社会福祉協議会にボランティアセンターを開設  
町在宅介護支援センターを開設
- 11月 第9回全国スポーツ・レクリエーション祭ソフトバレーボール大会開催

# 9

## 平成9年(1997) .....

- 3月 大泉町外二町環境衛生施設組合一般廃棄物最終処分場完成
- 4月 町発足40周年オープニングの集いを文化むらで挙  
行  
町行政手続条例がスタート
- 6月 町発足40周年記念行事のNHK「のど自慢」及び「歌  
舞伎舞踊」が行われる

# 10

## 平成10年(1998) .....

- 10月 町行政情報番組「みみよりOIZUMI」をFM放  
送で開始

# 11

## 平成11年(1999) .....

- 4月 町情報公開制度スタート
- 7月 広域公共バス「あおぞら」の運行開始

# 12

## 平成12年(2000) .....

- 4月 公共下水道一部供用開始  
介護保険制度スタート
- 10月 資源ごみの新たな分別収集を開始

# 13

## 平成13年(2001) .....

- 3月 第4次町総合計画(平成13年度～22年度)を策  
定
- 4月 いずみの杜オープン
- 11月 国民文化祭・ぐんま2001開催、町ではマンドリン・  
フェスティバル開催

# 14

## 平成14年(2002) .....

- 3月 町発足45周年記念行事を文化むらで挙  
行  
第3次町行政改革大綱(平成14年度～18年度)  
を策定

# 15

## 平成15年(2003) .....

- 3月 西邑楽三町任意合併協議会を設立
- 4月 町高齢者ふれあいセンター吉田がオープン  
障害児(者)集団活動訓練施設「くれよんはうす」オ  
ープン
- 10月 ISO14001認証取得

# 16

## 平成16年(2004) .....

- 3月 ポイ捨て等の防止に関する条例制定（4月施行・10月から罰則適用）
- 4月 太田市外五町（尾島町・新田町・大泉町・邑楽町・千代田町）広域清掃組合リサイクルプラザ稼働  
町内の各小（東・西・南・北）・中学校（南・北・西）で3学期制から2学期制へ
- 7月 西邑楽三町（大泉町・千代田町・邑楽町）合併協議会（法定）設置
- 10月 第17回全国健康福祉祭群馬大会（ねんりんピックぐんま）でソフトバレーボール交流大会開催
- 12月 西邑楽三町合併協議会休止

# 17

## 平成17年(2005) .....

- 1月 町高齢者ふれあいセンター寄木戸がオープン  
町公園墓地（996区画）の建設が始まる
- 2月 スペシャルオリンピックスホストタウン（アルジェリア）を受け入れ
- 3月 太田地区消防組合の解散に伴い、大泉消防団が「大泉町消防団」へ変更、大泉北分署が「城之内出張所」へ名称変更
- 4月 英語教育特区始まる
- 7月 町内循環バス「さわやか」の運行開始
- 12月 町安全安心まちづくり条例制定

# 18

## 平成18年(2006) .....

- 1月 町高齢者ふれあいセンター北小泉がオープン
- 3月 北中学校交流センターがオープン  
東小泉駅前安全センターがオープン
- 4月 機構改革により、部制を課・グループ制に  
西小泉駅前交番が再開される
- 9月 土曜学校始まる

# 19

## 平成19年(2007) .....

- 2月 第4次町行政改革大綱（平成19年度～23年度）を策定
- 3月 町発足50周年記念式典を文化むら大ホールで挙行
- 4月 町多文化共生コミュニティセンターを開所

# 20

## 平成20年(2008) .....

- 3月 第45回ラグビー日本選手権で三洋電機ワイルドナイツ優勝
- 4月 ブラジル移住100周年で天皇・皇后両陛下ご来町  
南中学校交流センターがオープン
- 8月 東毛広域幹線道路・大泉工区開通

# 21

## 平成21年(2009) .....

- 2月 第46回ラグビー日本選手権で三洋電機ワイルドナイツが2連覇達成
- 9月 町保健福祉総合センター完成

# 22

## 平成22年(2010) .....

- 2月 第47回ラグビー日本選手権で三洋電機ワイルドナイツが3連覇達成
- 4月 機構改革により、課・グループ制を部制に  
町消費生活センターが開所  
鳩山総理大臣が来町

# 23

## 平成23年(2011) .....

- 1月 ジャパンラグビートップリーグを三洋電機ワイルドナイツが初制覇
- 3月 東北地方太平洋沖地震が発生、大泉町でも震度5強を観測  
第5次町総合計画（平成23年度～30年度）を策定  
協働のまちづくり推進指針を策定
- 4月 パブリックコメント制度の実施
- 10月 パスポート申請がスタート
- 12月 南中学校改築校舎が完成

# 24

## 平成24年(2012) .....

- 2月 第5次町行政改革大綱（平成24年度～28年度）を策定

## 町民憲章

大泉町は、洋々として流れる大利根川と、こんこんとして湧きでる泉のほとりに生々発展し、とくに、近代産業の振興にともない、県下有数の工業都市となった。

この町の住民であることに、自覚と責任をもつわたくしたちは、大泉町発足20年にあたり、住みよい町づくりのために、町民憲章を定める。

- 1 いつも笑顔であいさつをかわしあい、誇りをもって仕事に精をだす町民になりましょう。
- 2 すすんでスポーツに親しみ、健康なからだと健全な心をつくりましょう。
- 3 自然を愛し、きれいな空と水と、みどりにつつまれた美しい町にしましょう。
- 4 郷土の歴史と伝統を愛し、文化の香り高い町にしましょう。
- 5 たがいに理解と信頼をもって、みんなの幸せのために、助けあいましょう。

(昭和52年4月3日制定)

## 宣言

### ◎交通安全都市宣言

交通徳の向上と遵法精神の高揚を図り、悲惨な交通事故の絶滅を期す目的で制定されました。

(昭和37年1月29日議会制定)

### ◎スポーツ都市宣言

大泉町民憲章に基づき、町民体育館の完成を機に、スポーツをとおして明るい豊かな大泉町を築くことを目的に制定されました。

(昭和55年12月19日制定)

### ◎非核平和の町宣言

世界唯一の核被爆国であり、空爆の悲惨さを体験している大泉町の発足30周年にあたり、総ての核兵器の廃絶と、永遠の世界平和の達成を目指し制定されました。

(昭和62年6月26日議会制定)

### ◎文化都市宣言

大泉町発足30周年にあたり、町民憲章のつとめ、特色ある文化都市をめざし、「創造」「感動」「ふれあい」を理念に制定されました。

(昭和62年7月24日制定)

### ◎ゆとり宣言

労働時間の欧米諸国との均衡を図り、真に豊かな生活を目指し制定されました。

(平成2年9月20日議会制定)

### ◎環境宣言

自然環境の破壊は、人類存亡の危機に発展する。自然環境を守ることを目指し制定されました。

(平成4年9月25日議会制定)

### ◎人権尊重と 福祉の町宣言

町民一人一人が、お互いの人権を尊重しあらゆる形態の差別をなくし、同和問題等の一日も早い解消を含めて、真に自由にして平等な町づくりの推進と、町民総参加による共に支えあふ福祉の町づくりを目指して制定されました。

(平成6年5月20日制定)

大泉町発足55周年記念  
大泉町今昔写真集

---

■企画・発行

群馬県大泉町

大泉町日の出 55-1 TEL.0276-63-3111

■制作

朝日印刷工業株式会社

2012年3月発行



町の木・けやき



町の木・さざんか



町の木・つつじ類  
(さつき含む)



町の花  
チューリップ (春)



町の花  
サルビア (秋)